夕陽のあの赤い色は活動的の色である。大阪はたしかに活動に適した所である。

月夜の色青は沈靜の色である。京都は靜かに遊ぶに適した所である。

大阪に城を築いた豐太閤は、あの夕陽の樣に、熱烈な雄大なそして、非常な煩腦性をもつた人であつた。

玲瓏な月の姿、沈靜な月夜、これは如何しても女性的である。

京は都の地公達が詩歌管絃の遊びに適した所である。

大阪は夕陽のそれの如く現實の都、黃金の都である。

京都は月光の如く理想的、空想的超世間的の都である。

大阪は現實的に戰ふによろしく、京都は藝術的生活によろしき所である。

こんなつまらぬ理屈を考へて居る間に汽車はいつしか京都に着いた。

十月九日稿

公設展覽會水彩畫素人評

市街(石川欽一郎氏)臺灣邊の町の通りを描いたのらしい、塲中の水彩畫中一番よいと思つた、例の輕快なる筆つかいは到底他畫伯の眞似ねる事出來ぬ所だ、實に色彩の豐富な活氣のある先生獨特のものだ。

燈下(夏目七策氏)常ながら人物の上手なのには敬服の外ない、よく燈下の色が出てる、我々素人には惡い處を見出す事出來ぬ同氏の靜物は**バック**の色と花瓶の色が等しい樣で、其れに花瓶の色彩は品のない色だ。

戸山原(橋本吾一郎氏) 此繪は一度戸山原で描いてる處を見た事がある、其時は別に感心はしなかつた、地に生いてる一面に一尺も長い草をどう云ふ風に描くかと思つて居つたが、此處で見ると案外にラクに出來て感じも出てる。

夏の野(森本茂雄氏) 水彩で一風變つた描き方だ、油繪ではこー云ふ描き方はよく有るが水彩では初めてだ、中々面白い、夏の强烈な感じを出すには適してゐると思つた。

白薔薇(鈴木錠吉氏) 花が少し眞の花より堅いと思つたがなかなかよい、清流は之より惡くないかしら。

讀書(赤城泰舒氏) 顏や手はたしかに夏目氏にをとる樣に思つた、殊に本を以つてる親指が妙だ。

靜けき夕(相田寅彦氏) 氏の三點の內で之が一番スキだ、開場してから四日許りより經たないのに最早賣約濟の札が着いてる

湖畔は湖の向ふにある山の**コバルト**が變だ、山水の秋はイヤに暗いキライな繪だ。

以上の外神の森(吉田ふじを氏)曇り(大橋正堯氏)日沒後(榎本滋氏) 春(大下藤次郎氏)若松(水野以文氏)なとが面白い。

テームス河畔(三宅克己氏)價は非常にたかいが他の繪に比してサツパリ我々には面白味が無かつた、其他未だ大分あるが皆日本洋畫界の繪舞臺へ出るくらいのものだからステキな繪ばかりである。(北畠孚明)